2012年トップ人事を占う

2011年は大手企業の社長交代が少ない1年だった。東日本大震災の混乱のなかで、多くのトップ人事が凍結されたとみられる。12年は反動で交代が秒読みという企業も目立つ。超円高、欧州危機といった難題にいかに立ち向かうのか―。各業界の新トップ人事を占った。

化学
7社中6社で交代済み

総合化学は昭和電工の市川秀夫社長（59）が11年1月、住友化学の十倉雅和社長（61）が同4月に就任。10年に旭化成と宇部興産、09年に三井化学、東ソーと7社中6社が3年以内に社長交代を済ませており、12年は無風になる公算が大きい。

国内最大手の三菱ケミカルホールディングス（HD）の小林喜光社長（65）は就任6年目となるが、12年5―7月に主要傘下企業とともに本社を千代田区丸の内1丁目に移転を決めている。13年度から本格化するグループ内の構造改革のめどが立つ前に交代する可能性は低い。三菱ケミカルHDのほか、旭化成、三井化学は11年度から中期経営計画を始動させている。12年度は中計目標達成に向け、海外事業の拡大や国内コンビナートの再編に手腕を発揮することになりそうだ。

建設機械
続投の可能性高く無風

建設機械メーカーのトップ人事は無風になりそうだ。日立建機の木川理二郎社長（64）が在任6年目、コマツの野路国夫社長（65）も5年目を迎えるが、世界経済の情勢が不透明なことから続投する可能性が高い。

日立建機は14年3月期を最終年度とする中期経営計画に入ったばかり。米キャタピラーやコマツに水を開けられている鉱山機械事業の強化を打ち出している。同事業は世界の資源メジャーとのトップ交渉が中心で、このタイミングでの交代は考えにくい。ほかにも大型投資案件を抱えており、強力なトップ主導が求められている。12年は現中計で掲げた最終年度1兆円企業達成に向けた重要な年だ。

コマツも13年3月期に中計の最終年度を迎えるが、野路社長続投の声が多く聞かれる。同社は変化に強い〝ダントツ〟体制の構築を目指している。目標とする売上高は12年3月期で達成する見込みで、生産販売などあらゆる面の「見える化」で経営の効率化を推し進めている。コベルコ建機（東京都品川区）と住友建機（同）、キャタピラージャパン（東京都世田谷区）は社長交代したばかり。

自動車
スズキ、世襲にらむ

鈴木俊宏氏

鈴木修氏

自動車業界ではスズキの動向に注目が集まる。独フォルクスワーゲン（VW）との提携解消問題がくすぶっているが、鈴木修会長兼社長（81）が長男の鈴木俊宏副社長（52）にバトンを渡す可能性が高くなってきた。国際仲裁裁判所でのVWとの仲裁には、鈴木会長が法廷で自ら証言する意欲を表明。決着までは続投との声も聞かれるが「社長を譲っても代表権のある会長なら対応できる。交代は近い」（関係者）との見方が強い。

同社は今年6月末に鈴木副社長など4人が代表権を持つ副社長に就任。重要な経営課題は、この4人が経営企画委員として討議する体制を築いた。4人の中でも「社内外で鈴木副社長の人望が高まっている」（同）という。しかし鈴木会長の影響力はしばらくは薄れそうにないため、会長として残る限り社長が代わっても当面は「大きな変化はない」（同）と見られる。

日産自動車の志賀俊之最高執行責任者（COO、58）と三菱自動車の益子修社長（62）は、ともに12年に就任から丸6年を迎える。志賀COOは日本自動車工業会の会長職を12年に退く予定で、日産COOとしての去就も注目される。しかし業績が比較的好調な中で、カルロス・ゴーン社長兼最高経営責任者（CEO、57）ともども今の経営体制がすぐに変わるとは考えにくい。

三菱自の益子修社長は、三菱重工業出身の西岡喬会長（75）との2人体制で経営再建の途上。累積損失や優先株の解消といった重要な課題が積み残しになっており、解決にめどがつくまでは続投する公算が大きい。

富士重工業は5月10日に社長交代を発表。森郁夫社長㊧から吉永泰之専務執行役員にバトンタッチした

自動車部品
日産系で一部動きも

トヨタ自動車グループはトップ人事が一巡しており、12年は平穏な見通しだ。関東自動車工業の服部哲夫社長（65）が交代のタイミングだったが、セントラル自動車、トヨタ自動車東北との3社で12年7月に合併し、新会社社長に白根武史トヨタ専務役員（59）が就任する人事が決まった。豊田自動織機の豊田鉄郎社長（65）はトヨタ創業家出身のトップだが、グループの内規年齢に達するだけにトップ交代の可能性はある。

日産自動車を最大顧客とする部品メーカーの一部でも後継者選びに動きがありそうだ。これまでの社長在任期間からみて交代しており、来年のトップ交代は十分ありえる。総合企画本部長の冨田哲郎副社長（60）が本命だ。

海運業界は大手に動きはなさそう。川崎汽船の朝倉次郎社長（61）は今年就任。日本郵船の工藤泰三社長（59）、商船三井の武藤光一社長（58）と他2社もここ2、3年で交代したばかり。ただ、海運市況は大逆風が吹いており、業績悪化が深刻化すれば経営陣刷新を求められるかもしれない。

航空業界も09年4月就任の伊東信一郎全日本空輸社長（60）は続投の見通し。日本航空も稲盛和夫会長（79）、大西賢社長（56）のツートップ体制で経営再建を続けると見られる。

航空・運輸
JR東、冨田副社長 本命

冨田氏

運輸の人事で最も注目されるのは鉄道最大手のJR東日本。清野智社長（64）は06年4月登板。前社長は就任から6年で交代しており、来年のトップ交代は十分ありえる。総合企画本部長の冨田哲郎副社長（60）が本命だ。

海運業界は大手に動きはなさそう。川崎汽船の朝倉次郎社長（61）は今年就任。日本郵船の工藤泰三社長（59）、商船三井の武藤光一社長（58）と他2社もここ2、3年で交代したばかり。ただ、海運市況は大逆風が吹いており、業績悪化が深刻化すれば経営陣刷新を求められるかもしれない。

航空業界も09年4月就任の伊東信一郎全日本空輸社長（60）は続投の見通し。日本航空も稲盛和夫会長（79）、大西賢社長（56）のツートップ体制で経営再建を続けると見られる。

繊維
三菱レイヨンの去就 注目

合成繊維業界では、鎌原正直三菱レイヨン社長（68）の去就が注目される。10年10月に三菱ケミカルホールディングス（HD）の完全子会社となった三菱レイヨンをまとめてきたが、06年6月に就任し12年6月で7年目となり、年齢的にも交代の可能性がある。いずれにしろ、次期トップが社内から順当に昇格するかは、小林喜光三菱ケミカルHD社長が子会社のトップ人事をどのように考えるかによるだろう。

また、12年6月で8年目を迎え、合繊大手6社の中で在任期間が最も長いのが東洋紡の坂元龍三社長（64）だ。ただ、まだ若く、任期を定めていないことや本人の続投の意志が強いため留任の可能性が高い。13年度までの中期経営計画の達成を見届けそうだ。東レ、帝人、クラレ、ユニチカも続投すると見られる。

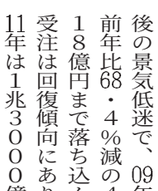
工作機械
現体制で難局乗り切る

工作機械業界はオーナー経営者が多く、トップ交代が有力視される企業は見あたらない。08年秋の米リーマン・ショック後の景気低迷で、09年に前年比68・4％減の41１８億円まで落ち込んだ受注は回復傾向にあり、11年は1兆3000億円を予想。ただ中国の金融引き締め策や欧州の金融不安などの問題を受け、11年夏以降は回復に減速感がある。歴史的な円高が続き、欧州メーカーや中国、台湾、韓国などの新興国メーカーとの競争も激化する中で先行き不透明感が増している。各社とも現体制で難局を乗り切る可能性が高い。

オークマは花木義麿社長（69）が12年6月で就任から満6年となる。同社は12年3月期連結決算で3期ぶりに全損益項目が黒字転換する見通し。ただ、本社工場を中心に生産体制の抜本見直しを進めている重要な時期で、もう1期は続投するとの見方が根強い。もし交代となれば、森義彦専務営業本部長（65）、領木正人常務FAシステム本部長（58）、堀康徳取締役技術本部長（54）が有力候補だ。

非鉄
JX日鉱金属、交代濃厚

非鉄業界で注目を集めるのが、JXホールディングス傘下の金属事業会社であるJX日鉱日石金属。12年度はJXホールディングスの中期経営計画の最終年度で、岡田昌徳JX日鉱日石金属社長（65）は就任から6年となる。13年度から始まるグループの新中計を新体制で迎える可能性が濃厚で、岡田氏の後任にはJX日鉱日石金属の子会社、パンパシフィック・カッパーの足立吉正社長（63）らが有力候補として挙がる。


足立氏

アルミ業界では、06年就任の吉原正照古河スカイ社長（66）や、07年就任の石山喬日本軽金属社長（67）の去就に注目が集まる。吉原古河スカイ社長は11月にタイでのアルミニウム板圧延工場の建設を発表しており、石山日本軽金属社長は今秋の「藍綬褒章」を受章するなど、両者とも節目を迎えた。

鉄鋼
新日鉄住金、バランス注視

新日本製鉄と住友金属工業が経営統合して12年10月発足を目指す新日鉄住金。統合は新日鉄の主導で進む形となることから、トップ人事も現在の新日鉄の陣容を主軸にして、そこにどう住金の人材を配置するかが焦点となる。

新日鉄の宗岡正二社長（65）、三村明夫会長（71）は12年4月で就任4年。任期5年が通常パターンとして続いており、交代があるなら13年4月が有力。12年10月の統合新会社には住金の友野宏社長（66）が共同会長や副会長などのポストに就く線が考えられる。

新日鉄の次期社長候補が控える文系副社長ポストは現在、内田耕造（63）、谷口進一（62）、進藤孝生（62）の3氏。宗岡社長と年齢が近いことから、12年春に常務ポストから昇格する新たな候補にも関心が集まる。

造船
三菱重は佃・前川氏 軸に

造船重機業界では最大の関心が三菱重工業だ。社長在任2期4年の慣例があり、08年4月に就任した大宮英明社長（65）は12年4月に4年の任期を迎える。後任には佃嘉章副社長（63）、前川篤常務執行役員（60）らが挙がる。佃氏はこれまで副社長から社長にする通例があるほか、同社の主力である原動機事業を手がけてきた実績がある。

一方の前川氏も11年4月に原動機事業本部副事業本部長から汎用機・特車事業本部長に転身。3期連続赤字が続く事業体質を改善、通期黒字化にめどをつけるなど社内評価を上げている。12年4月に在任8年目に突入する日立造船の古川実会長兼社長（68）の去就も注目される。古川氏は05年4月に社長に就任し、10年6月からは会長職を兼務している。だが、本人はすでに社長を続投する意志を固めており、少なくとも来春の社長交代はないもようだ。

業界ではIHIの釜和明社長（62）、三井造船の加藤泰彦社長（64）が就任5年を迎えるが、ともに前社長が6年間社長を務めていることから続投が濃厚だ。

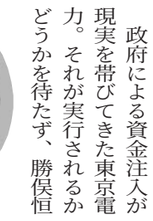
佃氏

前川氏

エネ
東電会長、外部登用に

政府による資金注入が現実を帯びてきた東京電力。それが実行されるかどうかを待たず、勝俣恒久会長（71）の退任は確定的で、後任には外部からの登用が有力だ。東電に限らず、電力会社は実質的に会長が最高権力者。すでに大物経済人や官僚OBの名前が複数挙がっている。事実上の国有化とはならずとも、経営破綻した日本航空の会長に京セラ創業者の稲盛和夫氏（79）が就任した時のように、人選には現政権の意向が大きく関与する。その顔によっては今後の電力改革の行方も占える。東電の総合特別事業計画がまとまる3月には内定の見通し。

西沢氏


勝俣氏

今年、就任したばかりの西沢俊夫社長（60）は留任が濃厚。だが、役員の総退陣を求める圧力も強く、東電では何としても社長の椅子だけは守りたいところ。

一方、ガス業界では東邦ガスの佐伯卓社長（60）が就任4年となり、交代の可能性がある。後任は本川正明取締役専務執行役員（60）や安井香一取締役専務執行役員（59）が有力視されている。

知ってますか？
ビジネス都市 YOKOHAMA

参加費無料

■日　時　2012年1月16日(月) 14:00～16:30
■場　所　メルパルクOSAKA　5階「カナーレ」
■申込み　受付中（先着順。定員になり次第締め切りとさせていただきます）

横浜市企業立地セミナー IN 大阪

プログラム

プレゼンテーション　14:00～

「首都圏拠点としての横浜の魅力」
…大阪から進出された企業様の声などもご紹介いたします。

「進出時の支援制度と立地後の充実したサポート」
…販路開拓や企業連携などのお手伝いをいたします。

ゲスト講演　14:45～

「利益に直結する問題発見と解決の技法のエッセンス」
…トヨタ方式、QCでは解決できない難題に対処するヒントをご紹介します。

（株）経営技法　代表取締役社長　鈴木 俊介 氏
1969年生、慶應義塾大学、Case Western Reserve大学院卒。
1992年 出光興産（株）
2002年 KPMGビジネスアシュアランス
2004年 Keprner-Tregoe Japan LLC
2009年（株）経営技法
問題解決技法について、企業規模に応じたプログラムメニューを開発、企業の個別課題に合わせ、研修からファシリテーション、コンサルティング支援を実施。また「物の考え方」をテーマに、問題解決のみならず、創造、意思決定、問題発見に関する技法のプログラムを開発し、上場企業など多くの企業で研修を行っている。

コーヒーブレイク（名刺交換）　15:40～

企業の皆様からの質問・疑問にお答えする時間を設けております。
お気軽にお声掛けください。　16:00～

※当日は、記念品をご用意させて頂いております。また、観光情報についてもご紹介いたします。

■アクセスマップ

アクセス：JR・地下鉄御堂筋線「新大阪駅」（4番出口）から徒歩5分
メルパルク大阪
〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-2-1
TEL: 06 (6350) 2111

■主催：横浜市　■協力：株式会社帝国データバンク　■協力：日刊工業新聞社

お申し込み・詳細はこちら ▶ http://www.nikkan.co.jp/j-forum/yokohama

お申込みに関するお問い合わせ先　横浜市企業立地セミナー事務局（株式会社帝国データバンク）　TEL 03-5775-3164
開催内容に関するお問い合わせ先　横浜市経済局 成長戦略推進部　誘致推進課　TEL 045-671-2595